



# 園だより

たかがみねこども園

平成30年10月31日

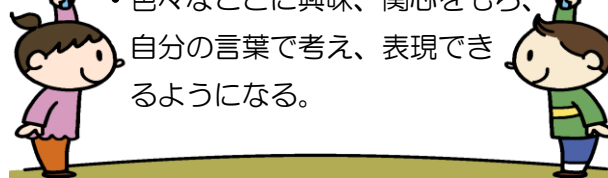
<http://www.takagamine-kids.ed.jp>

色づく木々に深まる秋を感じながら、自然との触れあいを楽しんでいる子どもたち。10月は各クラスでお散歩へ出かけ、どんぐりやまつぼっくり拾いをしました。これから一段と寒くなる季節に負けず元気いっぱい戸外あそびを楽しんでいきたいと思います。

さて今月は、『琵琶湖博物館&水生植物公園みずの森』『瀬田川リパークルーズ』『動物園』『京都御苑』へ行きます。秋の自然に触れ思いっきり遊びたいと思います。今月は畑で育てた野菜やお米を使った『収穫祭』もあります！！

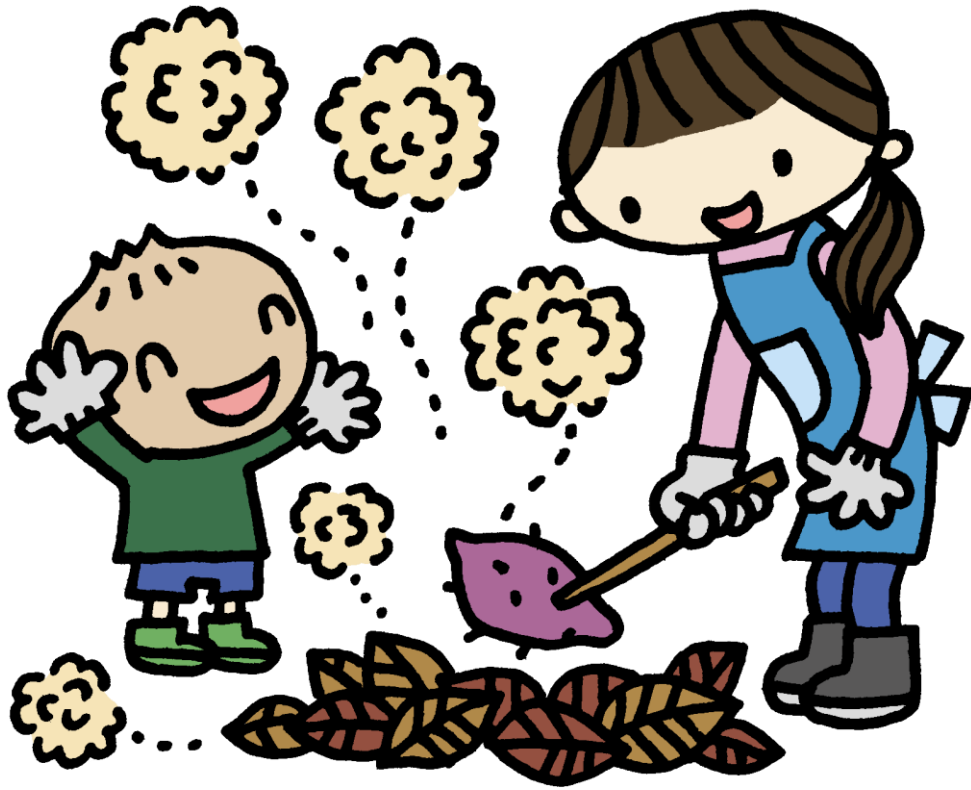
## ～ 11月の目標 ～

- お散歩や戸外活動を通して鷹峯の美しい自然環境を肌で感じ、豊かな感性・創造力を身につける。
- 色々なことに興味、関心をもち、自分の言葉で考え、表現できるようになる。



### 子は親の鏡。

「誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ。愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ。認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる。見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる。分かちあうことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ。親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る。子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ。やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ。守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ。和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる」長年、家庭教育や家庭関係のコンサルタントを務めた故ドロシー・ロー・ノルトさんの、『子は親の鏡』と題される(章の)言葉の一部です。ここに記載されている文章の前半では「けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる。とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる。」など、ネガティブな関わりが、子どものマイナスの成長を助長すると記されています。上記に書いてあるのは後半の部分で、ポジティブな関わりが、子どものプラスの成長を助長すると述べられています。ポジティブな関わりは、何か特別な関わりというよりも、親の何気ない表情や振り舞いの中にあります。親自身がハッピーでいることが、子どもにとってもハッピーな気持ちでいられるのかもしれませんが、『子は親の鏡』だとすれば、まずはここから、自分の子育てを振り返ってみてもいいかもしれませんね。



+

## 大きくなったかな! ?

☆子どもたちは讚州寺や吟松寺、妙見宮等へお散歩に行き、どんぐりやまつぼっくりをたくさん拾ってきました。

★ゆり組、うめ組が島本先生の畑へ行きたくさんのさつまいもを収穫しました。お芋が見えるとみんなで力を合わせて引っ張り、大きなお芋が出てくると大喜びでした。

☆クラス対抗で育てている大根・白菜や乳児組で育てている人参が大きく成長してきました。大根は土の中から顔をのぞかせ、子どもたちも「早く穫りたい〜」「うんとこしょ、したい」とお話しています。11月にある収穫祭でいただきます。

